



学僧。鎌倉時代中期の東大寺戒壇院の僧侶。越智郡高橋郷(現、今治市)出身。16歳で延暦寺戒壇にて菩薩戒を受け、20歳のときに東大寺戒壇院で円照を戒師として具足戒を受けた。その後、円照のほか真言院の聖守、尊勝院の宗性などの諸師に学び、華嚴、俱舎、律、三論、成実、法相、天台、真言の八宗すべてを広く修め、また法然の弟子である九品寺の長西からは浄土を、さらに東福寺では禅を学んだ。円照の没後は戒壇院を継承し管轄するが、その間も唐招提寺、室生寺、白毫寺などの各寺を巡りつつ、著述や講義、後進の育成に力を尽くした。徳治2(1307)年には後宇多上皇に授戒している。凝然は極めて多くの著作を残し、その数は120余部1200余巻と言われるが、文永5(1268)年に撰述した『八宗綱要』をはじめ、『浄土法門源流章』、『三国仏法伝通縁起』、『華嚴五教章通路記』、『華嚴探玄記洞幽鈔』などは特に名高い。

## 略歴

延応2(1240)年3月6日	越智郡高橋郷に生まれる。
建長7(1255)年	延暦寺戒壇にて菩薩戒を受ける。
正嘉元(1257)年	東大寺戒壇院に登る。
正嘉3(1259)年	東大寺戒壇院で円照を戒師として具足戒を受ける。 『内典塵露章』を撰述する。
文永5(1268)年	故郷の圓明寺(現、延命寺)で『八宗綱要』を撰述する。
建治2(1276)年	『梵網戒本疏日珠鈔』の執筆に着手(全50巻)。
建治3(1277)年10月	円照が没。戒壇院長老を継承する。
弘安4(1281)年	『華嚴二種生死義』を撰述する。
弘安10(1287)年	『華嚴孔目章発悟記』を撰述する。
正応4(1291)年5月18日	『華嚴十重唯識円鑑記』を撰述する。
閏6月11日	『華嚴十重唯識瓊鑑章』を撰述する。
7月18日	『華嚴十重唯識瑠鑑記』を撰述する。
永仁2(1294)年	『華嚴五教章通路記』の執筆に着手(全52巻)。
徳治2(1307)年11月	後宇田上皇に菩薩戒を授ける。
延慶2(1309)年	『華嚴探玄記洞幽鈔』が完成(全120巻)。
応長元(1311)年	『三国仏法伝通縁起』を撰述する。 『浄土法門源流章』を撰述する。
元亨元(1321)年 9月5日	『華嚴五十要問答加塵章』を撰述する。 82歳で永眠

(肖像画：東大寺蔵)

(肖像画の写真提供：愛媛県歴史文化博物館)

### 〈関連図書〉

- ・三浦章夫『愛媛郷土叢書 第18巻 愛媛の佛教史』松菊堂 1962年
- ・東大寺教学部『凝然大徳事績梗概』東大寺 1971年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 古代Ⅱ・中世』愛媛県 1984年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 学問・宗教』愛媛県 1985年
- ・浄土宗大辞典編さん委員会『新篇浄土宗大辞典』浄土宗 2016年
- ・律宗戒学院編『凝然教学の形成と展開』法蔵館 2021年

〈主な収蔵資料〉…(P194, 1)

〈ゆかりのある場所〉…(P264, 1)

〈関連施設〉…東大寺

〒630-8587 奈良県奈良市雑司町406-1 TEL: 0742-22-5511(代)